

わ げん はなは し やす はなは おこな やす てんかよ し な
吾が言は甚だ知り易く、甚だ行い易きも、天下能く知るもの莫
く、能く行うもの莫し。言に宗有り、事に君有り。夫れ唯だ知るこ
と無し。是を以て我を知らず。我を知る者希なるは、則ち我貴し。
是を以て聖人は褐を被て玉を懐く。

【大体の意味内容】私の言うことはだれでも容易く知ることができるし、実行するの
もた やすいものだ。しかし天下広しといえども、吾が言を心魂に徹して知ろうとするものはな
く、己が血肉として用いるものはいない。言葉にはその言霊の力で発動する宗旨があり、
遂行される事業には、慈愛豊かなリーダーに牽引される君徳がある。「言宗」と「事君」、
こうした表面には見えにくい働きを知ろうともしない。したがって吾が言の真意を知り
うるチャンスもない。しかし私が有名ではなく、ほとんど誰にも知られていないという、
そのことが、私の存在を、穢れのない貴いものとしている。このような存在の仕方に堪
えられるもの、いや愉しめるものが聖人であり、身なりは粗末な褐衣にして、心には宝玉
を懐いている。

誰に言ってもなく、恩師がつぶやいていたことがあつた。

「5ヶ月長い期間を共に過ごしていても、5ヶ月に出会つていない人のほうが、実は多いもの
だ。むしろ、本当に出会つた、と言える人が一体幾人いるか、心もとない。」

「一瞬の交わりでも、心底出会えた、と実感できることもある。本当の人間関係は、時間の長
短で決まるものではない。『コミュニケーション』とか『情報伝達』とかいうが、ちっとも

「情」など入っていないではないか。」

私は先生の学説や教育者としての気概に感銘を受けて、その門下に入ったのですが、確かに先生の「言宗」や「事君」をどれだけ看取しようとしていたか、あとから考えるとあやしいな、とも思います。せっかく尊敬できる人に巡り合えたのに、その人の本質を知ったり、自分の血肉として吸収したりするチャンスを逸していたのだとしたら、もったいないというよりも取り返しのつかない損失だったし、まだ先生への無礼であったと、今にして思います。

恩師の死後十年を経てから、遺稿論文集を編集・出版しましたが、その序文の中の「孤軍奮闘もこれへらうになると援軍を求める声も枯れ果てて…」という師の嘆きを見て、生前の先生は多くのお弟子さんに囲まれ最期の時まで旺盛に研究を進められてはいただけけれど、壮絶な孤独感にも耐えてらっしゃったのだなと、改めて思ったものでした。

年上とか年下に関係なく、すべての人に、学ぶべき点があります。とはいえそのすべてを学ぶ屋へすやうじょうは現実難し。けれど、目の前や身の周りには、得難い宝がたくさんあるのだやうじょうを、常に自覚してました。

「タンテコオン」はたんぼほのじょうび、その花じょうびのひょうじ、「別れ」があらまぢ。

「別れる」じょうび、実は尊じょうじだと思っしつぢまぢ。

私たちは「別れる」じょうびを「悲しいじょう」と思っつて、普段はなるべくそれを忘れて過ごそつとつていますが、本当は、今日の前にいる人、大好きな人、いやな人、みんなといずれは「別れる」じょうびを意識つて、その人とできるだけ深く『出会う』ことを思い続けるのも「あじ」ではなごぢじょうじか。

少なへとも、密度の高い人間関係になるでじょうじう。「コミュニケーション能力」とか「雑談力」とかいう言葉の使われ方を観るじょうけ、どつじつでもそごで謳われている人間関係には、希薄なもののしか感じられないのです。